

# オヤニラミ観察会レポート

環境省レッドデータでは絶滅危惧種とされているオヤニラミ。ところが今回講座で訪れた「水辺の楽校」は周囲にマンションや商業施設が立ち並び車や人通りの多い都市部にもかかわらず、絶滅危惧種とは思えないほどのたくさんのオヤニラミが見られるという「都会のオアシス」のような場所です。

ここも「水辺の楽校」整備前は洪水を防ぐためコンクリート護岸に囲まれた都市河川で生き物も少なかったのですが、治水機能と自然環境保全の両方に配慮した工事を行ない、現在では岸辺に植物が生い茂り、流れが蛇行しながら瀬と淵をつ

くる良好な水辺環境に生まれ変わりました。

こんなに私たちの生活圏に近い場所でオヤニラミが豊富に生息する場所は北九州では他になく「都市の中の川づくり」が成功した良い事例と言えます。

今回の観察会ではみなさん存分に魚採りの楽しさを味わっていただきましたが、こうした経験が「オヤニラミが生きていける環境とはどんなものなのか?」、「生き物と人間が共存するにはどうすれば良いのか?」を考えるきっかけになることを願います。



## 【活動の様子を紹介します】

- ① 採集の前に講師の先生からオヤニラミがどんな場所にいるのか、とサデ網の使い方をレクチャーしてもらいました。
- ② オヤニラミは岸辺に生える植物の根際などに隠れています。みんなでサデ網を構え、足でガサガサしながら網へ追い込みました。
- ③ 今年生まれの小さなオヤニラミが採れました! はじめて見る野生のオヤニラミの姿に感動!!
- ④ 「大きなオヤニラミが採れた!」と早速大きさを計ってみると何と体長9.4cmもある大物でした!
- ⑤ 見事にこの日一番大きなオヤニラミを捕まえた中学2年生の吉川君。水環境館オリジナルグッズを贈呈して表彰しました。

## 紫川 秋の風物詩

### ハゼ釣り大会が今年も開催されました!

秋晴れに恵まれた10月30日(日)、紫川河口で第21回ハゼ釣り大会が開催されました。老若男女たくさんの太公望たちで紫川周辺は大にぎわい。今年も例年通りたくさんのマハゼが遡ってきており、小気味よいハゼの引き味をみなさん大いに楽しんでいました。



釣れたハゼは検量所に持って行き一番大きな2匹の長さの合計を競います。

### ★大会の結果発表★ (各部門の第1位のみ)

- 【一般男性の部】  
合計40.0cm (20.1cm+19.9cm)
- 【一般女性の部】  
合計38.3cm (20.1cm+18.2cm)
- 【中高生の部】  
合計38.2cm (19.7cm+18.5cm)
- 【小学生以下の部】  
合計38.6cm (20.5cm+18.1cm)

### 誰でも釣れる!! 簡単な ハゼ釣りの仕掛け

道糸  
ナイロン  
1~2号

小型の  
玉ウキ

小型の  
オモリ

エサは針先から  
1cmくらい垂らす



3~5号の袖バリ

渓流竿  
または  
万能のベ竿  
(4m前後)

ハリス  
0.8~1.0号

### 〜〜ハゼ釣り よもやま話〜〜

江戸時代からハゼ釣りの記録が文献に残っています。釣り船が出たり、竿などの道具に凝る人もいて、当時から賑わっていた様子が想像できます。

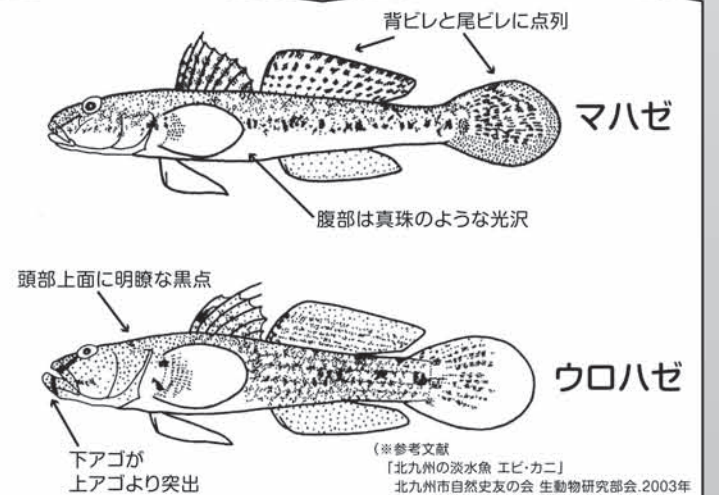
その後、人々の中でハゼ釣りに再び脚光が当たったのは昭和25年頃と言われています。誰にでも簡単に釣れる手軽さから次第にハゼ釣りは一大ブームを迎えました。またナイロン糸の開発など時代とともに道具の進化も加速し、より手軽なレジャーとして年齢性別を問わず親しまれています。

現在でも各地で競技会が行われており、ここ紫川河口でも秋の風物詩として市民の皆さんに広く愛されています。



希望者のハゼはその場で天ぷらにしてもらい、参加者に振る舞われました。

### よく似た2種の見分け方



※参考文献  
「北九州の淡水魚 エビ・カニ」  
北九州市自然史友の会 動物物研究部会、2003年  
「日本産魚類検索」東海大学出版会、2013年